

# 「トール・ヘイエルダール国際海洋環境賞」を受賞して

## 青く美しい海が活動の舞台

地球上に生命体が誕生するはるか昔に多くの幸運が重なってできた海は、地球表面の約71%を占め、地球の生物の90%は海に住んでいると推測され、地球上の水の約97.5%が海水であると言われています。

今日、世界の多くの国々と地域の経済活動や人々の暮らしは、原材料やエネルギー資源、そして様々な製品が海を渡って輸送されることで成り立っています。特に日本をはじめとする原材料やエネルギー資源に乏しい国や地域では、海上輸送への依存度が高く、海洋とそれを利用した「物の移動」は、皆さんが日ごろ実感している以上に重要だと言えるでしょう。海運企業は、海を活動の舞台として事業を始めたことから、海とその上に広がる空の青さの大切さを誰よりも知っていると感じ、このかけがえのない美しい地球とそこに生きるものを守るための努力を惜しんではならないと考えています。

## 海運企業の社会的責任の原点

海洋を利用した物の移動を担う海運企業の社会的責任の中でも最も重要なものは何でしょうか。それは安全運航の徹底です。安全運航とは無事故で航海することです。すなわち、お客さまから託された物を安全そして確実に予定どおり目的地にお届けすること、船舶や乗組員の安全を守ること、そして事故による環境破壊を防ぐことです。船の事故は、海洋汚染など地球環境に大きなダメージを与えることとなります。例えば、大型タンカーが座礁し原油が海に流れ出した場合、環境への影響は計り知れない大きさとなります。従って、安全運航の維持とそれに密接に関係した環境保全が海運企業の社会的責任の原点となります。

## ヘイエルダール博士の遺志を継いで

ノルウェーの文化人類学者で探検家であるトール・ヘイエルダール博士(1914-2002年)は、ポリネシア人のルーツが東南アジアではなく南米にあるという理論を提唱、筏船「コン・ティキ号」による8,000キロに及ぶ太平洋横断の航海でこれを証明しました。この勇敢でかつ海をこよなく愛した探検家ヘイエルダール博士は、1960年代後半から海洋環境を脅かすような状況について世界に警鐘を鳴らしてきました。そして99年6月には、ノルウェー船主協会とともに「トール・ヘイエルダール国際海洋環境賞」を設立しました。同賞は、環境を改善するための新たな方法の導入に対する意識の高揚、または実用的かつ財政的にも持続可能な新たな環境手段の開発によって、環境に役立つ顕著な貢献をした法人・団体・個人に贈られています。➤

## ステークホルダーと共に

日本郵船は2005年5月、民間企業として初めて、この名誉ある「トール・ハイエルダール国際海洋環境賞」を受賞しました。これは、安全運航の達成こそが最大の環境保全であるとして活動してきた、独自の安全品質管理手法とその成果が評価されたものです。また、06年2月には、同賞の受賞を記念して「日本郵船・ハイエルダール記念事業」を発足させ、地球環境保全に関する調査研究や人材育成を目的としたプロジェクトの助成を始めました。安全運航や環境保全は、取引先の理解と協力を得て初めて達成できることですが、一方で、今回の受賞のようにその成果を評価するステークホルダーが存在することの意義は大きいと考えます。CSRは決して企業が単独で取り組めるものではありません。社会的な悪影響や環境負荷を小さくする企業努力の成果とそれに対する社会の評価は、社会や環境への好影響をできるだけ大きくしようとする企業のさらなる取り組みへとプラスの連鎖を生み、社会と企業の持続的成長を目指すというCSR本来の狙いへとつながると信じて止みません。



太平洋横断に成功したコン・ティキ号

### 舟山 純

(ふなやま じゅん)

日本郵船 安全環境グループ  
環境マネジメントチーム長

1984年神戸商船大学商船学部卒業後、日本郵船入社、航海士として海上勤務。コンテナ貨物の積み付けシステムの開発、貨物情報のEDIネットワーク構築、船舶の安全品質管理業務などで陸上勤務。2001年船長に登用。03年より現職。

